

産業振興の課題・検討部会等での意見・対応状況（商業・観光分野）

資料①

	基本方向	基本施策	狙い	課題	検討部会での意見	対応状況	事業の方向性
①地域産業の発展・活性化 ②新たな起業の応援	ものづくり産業の振興	地域資源の活用とブランド化	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	・地域資源の掘り起こし ・顧客データ不足 ・ニーズに基づく商品開発 ・事業化する担い手不足 ・地域をまとめる人材（組織）不在	<p>&lt;地域資源の掘り起こしについて&gt; ○新商品開発や新事業の開発は、事業パートナーとのマッチングが課題。 <b>○新商品の開発により売上をアップした。</b></p> <p>&lt;顧客データ不足について&gt; ○マーケティングができていない <b>○市場の動きに関する情報がほしい</b></p> <p>&lt;ニーズに基づく商品開発について&gt; <b>○売上を確保するため新事業への展開が必要。</b> <b>○商品開発の支援があるといい。</b></p>	<p>&lt;地域資源の掘り起こしについて&gt; ○バイヤー等を招聘し、地域資源の掘り起こしを実施。 ○㈱ICMGと連携協定を結び、企業研修を誘致することにより地域資源掘り起こしを図る。 ○恵那山麓野菜のブランド化を推進。</p> <p>&lt;顧客データ不足について&gt; ○ビジネス専門家によるマーケティング支援を実施。 ○観光商品券等の発行時に顧客データを収集。 ○商工会議所・商工会においてIT活用セミナーを実施しノウハウ習得支援。</p> <p>&lt;ニーズに基づく商品開発について&gt; ○ビジネス専門家による商品開発支援を実施。</p>	<p>⑩ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業 ⑪ ビジネスプラン発掘支援事業 <b>⑬ 業態転換や経営の多角化等への支援</b> <b>⑭ シバスクラム恵那事業</b></p>
		知恵とネットワークを生かしたものづくり	事業者連携で地産地消を進め、新たな価値をつくる	・他地域と連携したグルメ開発 ・商業・観光・工業・農林業などの有機的な結びつき	<p>&lt;商業・観光・工業・農林業などの有機的な結びつきについて&gt; <b>○事業者連携を強化し、地元消費を増やすべき。</b></p>	<p>&lt;商業・観光・工業・農林業などの有機的な結びつきについて&gt; ○シバスクラム恵那や恵那くらしビジネスサポートセンターにおいて事業者同士のマッチングを支援。</p>	<p>⑩ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲） <b>⑭ シバスクラム恵那事業（再掲）</b> <b>⑮ 産業博覧会の開催支援</b></p>
		市場開拓・販路拡大	流通を確保する	・地域内外に売る仕組みづくり	<p>&lt;販路拡大について&gt; ○商品開発と販路拡大を同時に進めることが重要。 <b>○ネット通販の活用は販路拡大に効果がある。</b> <b>○コロナにより市場が縮小した。</b> <b>○販路拡大するための情報展開が必要。</b> <b>○海外展開への支援があるといい。</b></p>	<p>&lt;販路拡大について&gt; ○恵那山麓野菜の販売を開始。 ○シバスクラム恵那において観光や物産の複合サイトを構築中。 ○岐阜県大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会と連携した戦国みやげオンラインストアの立ち上げと販売開始。</p>	<p><b>⑭ シバスクラム恵那事業（再掲）</b> <b>⑯ 「カックとく！応援チケット！」「プレミアム付商品券」事業</b></p>
		集客・交流産業の振興	集客・交流産業の振興	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	<p>・地域資源の掘り起こし ・顧客データ不足 ・ニーズに基づく商品開発 ・メインとなるイベント不足 ・事業化する担い手不足 ・地域をまとめる人材（組織）不在 ・様々なスポーツを活用した観光の検討 ・ドラマを一過性にしないための取り組み ・新たな生活様式に対応した観光の仕組みづくり</p>	<p>&lt;地域資源の掘り起こしについて&gt; <b>○地域資源を生かした更なる観光振興で市場を拡大する必要がある。</b></p> <p>&lt;顧客データ不足・ニーズに基づく商品開発について&gt; ○SNSを活用した顧客データ収集を商品作りに生かしている。 <b>○市場の動きに関する情報がほしい</b> <b>○事業者連携を強化し、地元消費を増やすべき。</b> <b>○商品開発の支援があるといい。</b></p> <p>&lt;様々なスポーツを活用した観光の検討について&gt; ○自転車、バイク、車のツーリング客にお金を落としてもらい仕組みが必要。 ○市の施設の予約が1ヶ月前からしかできないので合宿予約を受けられない。 ○芝生グラウンドが少ない。 ○裾野の広いスポーツがいい。</p> <p>&lt;ドラマを一過性にしないための取り組みについて&gt; ○地域のファンになってもらうことが重要。 ○SNSを上手く活用するとピーター増加につながる。 ○イベントなどを継続的に実施し、現地の人と関わりを持つ</p>	<p>&lt;顧客データ不足・ニーズに基づく商品開発について&gt; ○ビジネス専門家による商品開発支援を実施。 ○商工会議所・商工会においてIT活用セミナーを実施。</p> <p>&lt;スポーツ観光について&gt; ○スポーツ合宿助成金により合宿誘致を促進。 ○アウトドアレジャーに着目した調査分析、計画策定を実施。 ○恵那峡で車中泊イベントを実施。 ○ドローンの活用促進のためドローンレース大会及び体験館を実施。</p> <p>&lt;ドラマを一過性にしないための取り組みについて&gt; ○大河ドラマを契機とした明智光秀ゆかりの地に関する観光コンテンツの整備 ○大河ドラマを契機とした白鷹城跡の森林整備、看板整備、遊歩道整備などに関する受入環境の整備 ○明智光秀関連商品、明知グルメの開発 ○明智光秀特設サイトによる、観光、食、土産物の一体的なPR ○特別展示「明智光秀が生きた時代の東美濃戦国史」の継続展示を検討。</p>

産業振興の課題・検討部会等での意見・対応状況（商業・観光分野）

				人を増やしていくことも重要。 <b>&lt;広域観光について&gt;</b> ○大きな事業者は自社でバス会社と連携した周遊ツアーを実施しているが、小さな事業者では難しい。市全体のパッケージを組めるといい。	<b>&lt;広域観光について&gt;</b> ○市外旅行事業者向けに恵那峡や大河ドラマ館、岩村、明智などを周遊するツアーに助成を行い、新たな旅行商品の造成を促進。	
	集客できる拠点の整備	楽しんでもらえる場所をつくる	・外国人旅行者対応 ・高齢化する国内旅行者への対応 ・岩村以外での案内機能充実 ・二次交通が充実していない	<b>&lt;外国人や高齢化する旅行者への対応について&gt;</b> ○中山道を歩く外国人が増えたがトイレが少ない。 ○恵那峡 SA に恵那市の観光パンフレットを置くといい。 ○インバウンド対策が十分できていない。 ○休憩箇所に Wi-Fi 設置するといい。 <b>&lt;二次交通が充実していない&gt;</b> ○物流インフラを整備する必要がある。 ○駐車場等の観光関連施設の稼働率を分析し、拠点整備すべき。	<b>&lt;外国人や高齢化する旅行者への対応について&gt;</b> ○観光事業者が行う受入環境整備を支援し、Wi-Fi 整備、トイレ洋式化、多言語化対応などを支援。 ○指定管理施設など観光施設の Wi-Fi 整備を実施。 ○道の駅らっせいみさとを改修。トイレ洋式化、空調整備などを実施。 ○中部運輸局と連携した外国人向けガイド付きウォーキングの造成	④ ジバスクラム恵那事業（再掲） ④ インバウンド対策 ④ デジタル化への支援
	魅力発信	市内外に魅力を知ってもらう	・一元的な情報発信（地域情報プラットフォームの構築） ・他地域の情報不足 ・イベントの重複 ・観光客がほしい情報提供	<b>&lt;一元的な情報発信について&gt;</b> ○情報をとりまとめ発信する体制整備が必要。 ○利用者が観光サイトを更新する仕組み（アクセス多い人には景品）。 ○事業者が行ってもお金にならないイベントで行政が PR。 ○恵那市単独ではインバウンド小さいので昇龍道プロジェクトなどに参加するといい。 ○恵那に来ると何があって何ができるか整理して発信する必要がある。 ○国内外へ向けた情報発信の強化が必要。 ○市内全域で意識付けする必要がある。	<b>&lt;一元的な情報発信について&gt;</b> ○「心がほっと恵那の旅」サイトを開設し、観光情報発信を強化。 ○Facebook、Instagram 広告を活用した情報発信 ○明智光秀ゆかりの地特設ウェブサイトを活用 ○台湾市場向け観光プロモーションを実施。旅行博への出展や両校会社等への情報発信を実施。 ○中部国際空港と連携した観光 PR と、レンタカーを活用した個人旅行者への PR。	④ ジバスクラム恵那事業（再掲） ④ インバウンド対策（再掲）
経営基盤の強化	経営支援	時代に対応した持続する経営体制を整える	・経営者の事業承継に対する重要性認識	<b>&lt;事業承継について&gt;</b> ○儲からないから引き継がない。	<b>&lt;事業承継について&gt;</b> ○岐阜県事業承継ネットワークの専門家支援を活用し、事業承継を推進。	④ 事業承継支援事業 ④ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲）
	経営基盤の強化		・キャッシュレスやソフトなど IT 活用（新しい生活様式への対応） ・ネット環境に対応したインフラ整備 ・アプリ等を活用した商店街のデジタル化 ・事務の効率化 ・チェーン店や商業地区ができることへの対策	<b>&lt;キャッシュレスやソフトなど IT 活用（新しい生活様式への対応）&gt;</b> <b>&lt;キャッシュレス対応について&gt;</b> ○決済手数料の負担が増加した。 ○デジタル化は生産性向上に効果あり。 ○デジタル機器導入などへの支援があるといい。 ○新たな生活様式に対応するためのノウハウが不足。 <b>&lt;チェーン店や商業地区ができることへの対策について&gt;</b> ○商店街が生き残っていくためにはポイント制度がいいのか他の方法がいいのか十分に議論する必要がある。	<b>&lt;キャッシュレスやソフトなど IT 活用（新しい生活様式への対応）&gt;</b> ○新しい生活様式や観光スタイルに対応したキャッシュレス導入や Wi-Fi 設置に対し補助。 <b>&lt;チェーン店や商業地区ができることへの対策について&gt;</b> ○Go To 商店街補助金を活用して商店街アプリを開発中。	④ デジタル化への支援（再掲） ④ 商店街等活性化支援事業
	新たな担い手発掘と育成	起業・創業しやすい環境をつくる	（未着手）			④ 創業・起業チャレンジ事業 ④ ビジネスプラン発掘支援事業（再掲）
人材の確保・育成	人材の確保	働きたいと思われる職場をつくる	・採用担当者の採用に関するノウハウ不足	<b>&lt;人材不足について&gt;</b> ○実務経験者を活用したい。	<b>&lt;人材不足について&gt;</b> ○副業人材活用サービスを実施	④ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲） ④ シニアワークステーション事業 ④ 女性の活躍推進事業

産業振興の課題・検討部会等での意見・対応状況（商業・観光分野）

		市民が事業者を知る機会の創出	地域の人に事業者の魅力を 知ってもら	・教育中での郷土愛醸成 ・地元企業が市民に知られていない	<p>&lt;教育中での郷土愛醸成について&gt; ○恵那の歴史や産業の成り立ちを知らないで市外へ出て行ってしま</p> <p>&lt;地元企業が市民に知られていないについて&gt; ○自社の事業内容が十分に理解されていない。 ○認知度が低い。 ○地元高校生の就職率をアップしたい。</p>	<p>&lt;教育中での郷土愛醸成&gt; ○まちなか市で中学生が出店 ○中学や高校で職業講話などを実施。</p> <p>&lt;地元企業が市民に知られていないについて&gt; ○中学・高校生を対象とした企業見学会等の取組を増加し実施。 ○地元企業によるプログラミング教室等の実施を支援。</p>	⑩ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲）
		潜在的人材の発掘	まだ働いていない人に活躍してもら	・女性やシニアの活躍	<p>&lt;女性やシニアの活躍について&gt; ○女性やシニアの活用を強化したい。 ○中卒ニートと企業を結び付ける取り組みができないか。</p>		⑩ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲） ⑩ シニアワークステーション事業（再掲） ⑩ 女性の活躍推進事業（再掲） ⑩ 創業・起業チャレンジ事業（再掲）
		人材育成	伝統や文化、技術を伝え、 次の担い手を育成する	（未着手）	<p>&lt;人材育成について&gt; ○社内外の研修参加を促進したい。</p>		⑩ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲）
③ バランスの 取れた企業 誘致	産業基盤の 強化	企業立地の促進	地域に必要な企業を誘致する	（未着手）			
		地域の個性を生かした産業基盤の強化		（未着手）			

産業振興の課題・検討部会等での意見・対応状況（工業部会）

資料①

	基本方向	基本施策	狙い	課題	検討部会での意見	対応状況	事業の方向性	
①地域産業の発展・活性化 ②新たな起業の応援	ものづくり産業の振興	地域資源の活用とブランド化	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	・独自の技術や自社ブランド強化	<b>&lt;独自の技術や自社ブランド強化について&gt;</b> ○医療やロボットなど成長産業分野の企業を招聘してマッチングすることもない。 ○地元の製品等や技術の活用を強化し、ブランド化が必要。 ○新事業や業態への展開も必要。ヒントとなる情報がほしい。	<b>&lt;独自の技術や自社ブランド強化について&gt;</b> ○都市部企業展への出展によりマッチング相手となる企業を調査（コロナにより未実施） ○ドローン企業を誘致。ドローン活用を推進。	⑥ジバスクラム恵那事業 ⑦恵那くらしビジネスサポートセンター事業 ⑧ビジネスプラン発掘支援事業 ⑨業態転換や経営の多角化等への支援	
		知恵とネットワークを生かしたものづくり	事業者連携で地産地消を進め、新たな価値をつくる	・異業種連携を促進する仕組みづくり	<b>&lt;異業種連携を促進する仕組みづくりについて&gt;</b> ○他社と連携を促進するため IT 機器等への支援もほしい。 ○他社とのマッチング支援や情報展開があるといい。	<b>&lt;異業種連携を促進する仕組みづくりについて&gt;</b> ○恵那くらしビジネスサポートセンターにおいて事業者同士のマッチングを支援。	⑥ジバスクラム恵那事業（再掲） ⑦恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲） ⑨産業博覧会の開催支援	
		市場開拓・販路拡大	流通を確保する	（未着手）	<b>&lt;市場開拓・販路拡大について&gt;</b> ○コロナにより市場が縮小した。 ○地元市場を開拓することも必要。 ○情報発信の専門家紹介など支援があるといい。	<b>&lt;市場開拓・販路拡大について&gt;</b> ○恵那くらしビジネスサポートセンターにおいて事業者同士のマッチングを支援（再掲）	⑥ジバスクラム恵那事業（再掲）	
	集客・交流産業の振興	集客・交流産業の振興	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	・オープンファクトリーなど観光での活用				⑥ジバスクラム恵那事業（再掲） ⑦恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲） ⑧ビジネスプラン発掘支援事業（再掲） ⑨業態転換や経営の多角化等への支援（再掲）
		集客できる拠点の整備	楽しんでもらえる場所をつくる	（未着手）				⑩デジタル化への支援
		魅力発信	市内外に魅力を知ってもらう	（未着手）				⑥ジバスクラム恵那事業（再掲）
	経営基盤の強化	経営支援	時代に対応した持続する経営体制を整える	・経営者の事業承継に対する重要性認識	<b>&lt;経営支援について&gt;</b> ○市場が縮小しており更なる減税も必要。	<b>&lt;事業承継について&gt;</b> ○岐阜県事業承継ネットワークの専門家支援を活用し事業承継を推進。	⑧事業承継支援事業 ⑦恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲）	
		経営基盤の強化		・ソフトなど IT 活用 ・事務の効率化・先端設備未導入事業者への支援 ・先端設備に関するノウハウ不足 ・社内管理体制の改善 ・セキュリティの強化	<b>&lt;IT/IoT の活用について&gt;</b> ○IT 等の活用も必要だが生産性向上に繋がりが分からない。 ○導入事例の紹介や意見交換する機会があるといい。 ○IT/IoT 関連企業が近くにあるといい。 ○IT 機器等導入などデジタル化への支援もほしい。 ○5G 環境の整備が必要。	<b>&lt;IT/IoT の活用について&gt;</b> ○IoT 導入経費の一部を補助。 ○岐阜県 IoT コンソーシアムによる IoT セミナー情報を提供。 ○Zoom セミナーを開催。 ○テレワーク補助金を創設	⑧IoT 推進ラボ事業 ⑦恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲） ⑧ものづくり産業の生産性向上事業 ⑩デジタル化への支援（再掲）	
		新たな担い手発掘と育成	起業・創業しやすい環境をつくる	（未着手）				
	人材の確保・育成	人材の確保	働きたいと思われる職場をつくる	・採用担当者の採用に関するノウハウ不足 ・転出者への情報提供 ・高校生確保の取り組みが十分でない ・事業者とネットワークがない学校との関係構築 ・雇用形態の変化への対応	<b>&lt;外国人労働者について&gt;</b> ○中心市街地周辺のアパート確保、日本語教室、移動販売、地域との交流など外国人労働者が働く環境を整備してほしい。 ○都市部の会社へ行きたがる。 ○市内企業が外国人労働者の雇用についてどう考えているかアンケートを取ってほしい。 ○海外研修や人材発掘等の調査を検討できないか。  <b>&lt;高校生の確保について&gt;</b> ○新卒者の確保をさらに強化したい。 ○企業側も土日のなどにも対応したい。 ○学生はインターンシップに行ける範囲が限られている。 ○学校の先生は直接企業に連絡しづらい。	<b>&lt;外国人労働者について&gt;</b> ○総合計画において外国人労働者の増加を見据えたまちづくりを進めるよう提案 ○外国人労働者の雇用に関するアンケート調査実施。  <b>&lt;高校生の確保について&gt;</b> ○地元企業をより理解してもらうため高校での体験型職業講話を実施。 ○高校生企業見学会への参加企業を増加し、継続的に実施。 ○高校生と保護者を対象とした合同企業説明会を開催。 ○恵那特別支援学校生徒・保護者・教諭対象の企	⑩成果を上げる就職面接会等のシステム構築 ⑧企業の採用力向上事業 ⑦恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲） ⑧女性の活躍推進事業 ⑧シニアワークステーション事業	

産業振興の課題・検討部会等での意見・対応状況（工業部会）

				<p>&lt;全般&gt;  <b>○実務経験者や高度な技術・知識を持つ人材を活用したい。</b>  <b>○若い世帯を増やす取り組みを。</b>                  ○人材採用のスキルが必要（大手はある）                  ○働き方改革により残業が制限されると辞めてしまうケースもある。                  ○都市部で就職イベントも効果があるかもしれない。</p>	<p>業・福祉事業所説明会を恵那・中津川に拡大実施。                  ○インターンシップ実施に係る交通費を助成。</p>		
		市民が事業者を知る機会の創出	<p><b>地域の人に事業者の魅力を知ってもらおう</b></p>	<p>・自社のPRノウハウ不足                  ・転出者への情報提供                  ・高校生確保の取り組みが十分でない                  ・事業者とネットワークがない学校との関係構築</p>	<p>&lt;自社のPRノウハウ不足について&gt;  <b>○自社の強みを十分発信できていない。</b>  <b>○会社の認知度が低い。</b>                  ○ケーブルTVを利用して市内企業の紹介映像を学校で流せないか。                  ○継続していくことで多くの人に知ってもらいたい。</p> <p>&lt;高校生確保の取り組みについて&gt;  <b>○市民に知ってもらい取り組みをさらに強化してほしい。</b>                  ○郷土愛がある中学生のうちから取り組むといい。                  ○職業講話など、職業につながる勉強を先生と生徒と一緒に継続していくべき。</p>	<p>&lt;自社のPRノウハウ不足について&gt;                  ○自社のプレゼン力向上セミナーを開催。</p> <p>&lt;高校生確保の取り組みについて&gt;                  ○地元企業をより理解してもらうため高校での体験型職業講話を実施（再掲）                  ○高校生企業見学会への参加企業を増加し、継続的に実施（再掲）                  ○高校生と保護者を対象とした合同企業説明会を開催（再掲）                  ○地元企業をより理解してもらうため中学での体験型イベントを実施（再掲）                  ○地元企業による小学校でのプログラミング教室開催を支援</p>	<p><b>④ 成果を上げる就職面接会等のシステム構築（再掲）</b>                  ④ 企業の採用力向上事業（再掲）                  ④ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲）                  ④ 女性の活躍推進事業（再掲）                  ④ シニアワークステーション事業（再掲）</p>
		潜在的人材の発掘	<p><b>まだ働いていない人に活躍してもらおう</b></p>	<p>・市内女性の働くことへのニーズ把握                  ・市内高齢者の働くことへのニーズ把握</p>	<p>&lt;女性の活躍について&gt;                  ○生産管理や接客が優れている。                  ○プログラマーや検査係は女性が増えた。                  ○ターゲットは子育てが終わった40代後半。                  ○女性が復帰できる仕組みづくりや会社業務の標準化が必要。</p>	<p>&lt;女性の活躍について&gt;                  ○女性を対象とした企業説明会を開催。</p> <p>&lt;シニアの活躍について&gt;                  ○シニアの再就職応援セミナーを開催。</p>	<p>④ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲）                  ④ 女性の活躍推進事業（再掲）                  ④ シニアワークステーション事業（再掲）</p>
		人材育成	<p><b>伝統や文化、技術を伝え、次の担い手を育成する</b></p>	<p>・技術伝承のための仕組み</p>	<p>&lt;人材育成について&gt;                  ○人材育成するための人材がいらない。  <b>○人材育成の方法が昔と変化している。</b>  <b>○研修情報が不足。</b>  <b>○社内外の研修に参加させたい。</b>                  ○中間管理職がいらない。                  ○新入社員を対象に、マナーや電話対応などの研修をしてほしい。                  ○定着のためのハラスメント研修も必要。</p>	<p>&lt;人材育成について&gt;                  ○新入社員研修をスタート                  ○中堅・リーダー研修をスタート                  ○管理者研修をスタート</p>	<p><b>④ 人材の定着支援事業</b>  <b>④ 産業人材育成支援事業</b>                  ④ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲）</p>
③ バランスの取れた企業誘致	産業基盤の強化	企業立地の促進	<p><b>地域に必要な企業を誘致する</b></p>	<p>・企業誘致戦略の整備                  ・企業側の立地ニーズの把握                  ・工業用地の確保                  ・社員の住環境整備</p>	<p>&lt;企業誘致について&gt;                  ○若者の選択肢が増えることも含めて新たな産業など誘致は必要。  <b>○誘致企業に人材を取られないよう考慮し、既存企業を守ってほしい。</b>                  ○既存企業と関連のある企業を誘致。                  ○企業が来れば仕事が増える。                  ○人を増やすため住宅を増やす。</p>	<p>&lt;企業誘致について&gt;                  ○総合計画において住宅施策を検討するよう提案                  ○(株)ICMGとの連携協定により企業研修を誘致し、段階的に企業立地へ繋げる取り組みに着手                  ○ドローン企業を誘致。市内での活用を推進。                  ○サテライトオフィス誘致に向け商談会に参加</p>	<p><b>④ 企業研修の誘致推進</b>                  ④ サテライトオフィス誘致事業                  ④ 企業誘致促進事業（成長産業分野誘致）                  ④ 本社機能移転プロジェクト</p>
		地域の個性を生かした産業基盤の強化		<p>・地元企業と関連性のある企業の選定</p>	<p>&lt;地元企業と関連性のある企業の選定について&gt;                  ○医療やロボットなど成長産業分野の企業を招聘してマッチングすることもいい（再掲）。</p>	<p>&lt;地元企業と関連性のある企業の選定について&gt;                  ○都市部企業展への出展によりマッチング相手となる企業を調査（コロナにより未実施）</p>	<p><b>④ 企業研修の誘致推進（再掲）</b>                  ④ サテライトオフィス誘致事業（再掲）                  ④ 企業誘致促進事業（成長産業分野誘致）（再掲）                  ④ 本社機能移転プロジェクト（再掲）</p>

産業振興の課題・検討部会等での意見・対応状況（農業分野）

資料①

	基本方向	基本施策	狙い	課題	検討部会での意見	対応状況	事業の方向性
①地域産業の発展・活性化 ②新たな起業の応援	ものづくり産業の振興	地域資源の活用とブランド化	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>売れる作物の検討</li> <li>生産農家の確保</li> <li>振興作物の栽培推奨</li> <li><b>耕作放棄地の増加（早期の圃場整備）</b></li> <li><b>生産から流通・販売まで一貫したプロデュース</b></li> </ul>	<p>&lt;売れる作物の検討&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の農家に品目を任せのではなく、地域として売れる作物を選択し、市全体での取組が必要</li> <li>栗は手間がかかる、お菓子の原料として使われるヘーゼルナッツ等を検討してほしい</li> </ul> <p>&lt;耕作放棄地の解消&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農地の再生から販路や収益の確保まで、バックケージングによるサポートが必要</li> <li>地域の入口や観光地の近くに耕作放棄地があるのは印象が良くない。景観保全の観点からも観光や商業と連携した積極的な解消が必要</li> </ul>	<p>&lt;売れる作物の検討&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和菓子の原料となる白小豆の栽培</li> <li>トマトやイチゴ、ナス、栗、自然薯、エゴマなど品目ごとの生産組合で産地の拡大に向けて取組を実施</li> </ul> <p>&lt;耕作放棄地の解消&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耕作放棄地の再生に対する支援を実施</li> <li>地域で計画的に解消するため「人・農地プランの実質化」を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水稲+1推進事業</li> <li>NEW FARMERS 交流会議</li> <li><b>農業の様々な主体との連携事業</b></li> <li>遊休農地の活用促進事業</li> <li><b>「たべる」プロジェクト</b></li> <li>恵那くらしビジネスサポートセンター事業</li> <li><b>ジバスクラム恵那事業</b></li> <li><b>スマートテロワールの推進（食料自給圏の形成）</b></li> </ul>
		知恵とネットワークを生かしたものづくり	事業者連携で地産地消を進め、新たな価値をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関と連携による開発・PR</li> <li>野菜の確保</li> </ul>	<p>&lt;地産地消の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商品を戦略的に販売していく必要がある。</li> <li>生産者と料理人のマッチングが困難。</li> </ul>	<p>&lt;地産地消の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耕作放棄地解消の取り組みとして栽培したエゴマを使ったレシピを恵那農業高校と連携して考案</li> </ul> <p>&lt;事業者との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発酵をテーマとした新たな特産品の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>食と農の交流会</b></li> <li><b>「たべる」プロジェクト（再掲）</b></li> <li><b>農業の様々な主体との連携事業（再掲）</b></li> <li>恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲）</li> <li><b>ジバスクラム恵那事業（再掲）</b></li> </ul>
		市場開拓・販路拡大	流通を確保する	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域飲食店との連携</li> <li>販売農産物の充実</li> <li><b>市内流通の増加</b></li> </ul>	<p>&lt;販売拠点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍を踏まえて、消費者のターゲットを明確にして販路拡大を進める。</li> <li>市内では売れないと思っていたが、市内でも希望する価格で売ることが分かった。近くの人に食べてもらえることは生産者として励みになる</li> <li>市内農家対象の集荷の仕組みが必要</li> </ul>	<p>&lt;販売拠点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マルシェ月1回（第3土曜日）開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>食と農の交流会（再掲）</b></li> <li>拠点となる農産物販売所の整理</li> <li>NEW FARMERS 交流会議（再掲）</li> <li><b>ジバスクラム恵那事業（再掲）</b></li> <li><b>農産物流通体制の整備</b></li> <li><b>スマートテロワールの推進（食料自給圏の形成）</b></li> </ul>
	集客・交流産業の振興	集客・交流産業の振興	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>地産地消登録店の磨き上げ</li> </ul>		<p>&lt;集客できるコンテンツづくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マルシェ月1回（第3土曜日）開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>食と農の交流会</b></li> <li><b>「たべる」プロジェクト（再掲）</b></li> <li>恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲）</li> <li><b>ジバスクラム恵那事業（再掲）</b></li> </ul>
		集客できる拠点の整備	楽しんでもらえる場所をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の確保</li> <li>体験できる場の整備</li> <li>農泊との連携</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点となる農産物販売所の整理（再掲）</li> <li>都市農村交流事業</li> </ul>
		魅力発信	市内外に魅力を知ってもらう	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイト掲載内容の充実</li> </ul>		<p>&lt;情報発信&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食のポータルサイト『たべとる』を活用した情報発信</li> <li>YouTubeを活用した動画の配信</li> <li>恵那中央出張所『えなえー』での食に関する情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食と農のポータルサイト『たべとる』や恵那中央出張所『えなえー』での情報発信の充実</li> </ul>
	経営基盤の強化	経営支援	時代に対応した持続する経営体制を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営改善セミナー内容の検討</li> </ul>	<p>&lt;セミナー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手農家に受講させるとよい</li> </ul>	<p>&lt;セミナー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>希望する農家に農業経営アドバイザーによる個別診断を実施</li> <li>GAPの活用による高付加価値化についてセミナーを実施予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業者の経営改善事業</li> <li>恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲）</li> </ul>
		経営基盤の強化		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ICTなどデジタル化による生産性向上</b></li> <li><b>若手トマト農家の高収量化</b></li> <li>事業者の事業継承に対する重要性認識</li> </ul>	<p>&lt;スマート農業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手間を惜むと計画した収量が得られず、コストが高い分、赤字になりやすい。</li> <li>導入に係る経費が高く積立が必要なので導入までに時間を要する。</li> </ul>	<p>&lt;スマート農業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>串原においてリモコン式草刈り機とドローンでの防除について実証実験を実施</li> <li>恵那農高と法政大学との連携によりハウスの環境測定のリモート化を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTスマート農業の推進</li> <li>担い手の育成・確保</li> </ul>

産業振興の課題・検討部会等での意見・対応状況（農業分野）

		新たな担い手発掘と育成	起業・創業しやすい環境をつくる	・新規就農者の確保 ・あすなる農業塾長の育成	<新規就農者の確保> ・農業で一年を通じて稼げる仕組みづくり（品目）を検討する必要がある。	<新規就農者の確保> ・県、JAと連携した移住者等への新規就農相談の実施によるサポート	⑧ 担い手の育成・確保（再掲）
	人材の確保・育成	人材の確保	働きたいと思われる職場をつくる	・担い手不足（後継者育成） ・採用に関するノウハウ不足 ・幅広い人材の確保 ・営農組織の高齢化	<半農半X> ・素人でもできるように指導動画を作成し、欲しい額に応じて農地を用意するなど、農業で稼ぎたい収入を確保できるサポートが有効	<人材確保> ・希望する農家に農業経営アドバイザーによる個別診断を実施（再掲）	⑧ 農業者の経営改善事業（再掲） ⑧ 担い手の育成・確保（再掲）
		市民が事業者を知る機会の創出	地域の人に事業者の魅力を知ってもらおう	・自社のPRノウハウ			⑧ NEW FARMERS 交流会議（再掲）
		潜在的な人材の発掘	まだ働いていない人に活躍してもらおう	・福祉事業者のニーズ把握と仕組みづくり ・女性のニーズ把握 ・高齢者のニーズ把握		<農福連携> ・岐阜県と連携し、恵那地域農福連携推進協議会を設立し、セミナー等開催予定	⑧ 担い手の育成・確保（再掲）
		人材育成	伝統や文化、技術を伝え、次の担い手を育成する	・技術力向上		<各種研修の実施> ・J A や岐阜県と連携し、トマトや栗、イチゴなどの栽培技術の向上のための研修会を実施	⑧ ICT スマート農業の推進（再掲）
③ バランスの取れた企業誘致	産業基盤の強化	企業立地の促進	地域に必要な企業を誘致する	・日本食農連携機構との連携	<企業参入> ・耕作放棄地の再生や振興作物の拡大を推進するため、地域や個人農家だけでなく、企業参入についても積極的に進めてほしい。	<企業立地の促進> ・日本食農連携機構や J A と連携し、恵那川上屋による恵那山ファーム事業を推進	⑨ 農業の様々な主体との連携事業
		地域の個性を生かした産業基盤の強化		・集落営農法人の法人化	<農業法人の企業化> ・農業法人が企業化して農家の方たちを雇うような法人を作ることができないか。		⑧ 担い手の育成・確保（再掲）

産業振興の課題・検討部会等での意見・対応状況（林業分野）

資料①

	基本方向	基本施策	狙い	課題	検討部会での意見	対応状況	事業の方向性
①地域産業の発展・活性化 ②新たな起業の応援	ものづくり産業の振興	地域資源の活用とブランド化	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	・オリジナル製品開発 ・付加価値の高いビジネスモデルの構築 ・山を維持しながら資源として活用する取り組み	<p>&lt;オリジナル木工製品の開発について&gt; ○森の木を活かした木製品の検討を行い、木材利用を増やす。 ○「城主木」でオリジナル製品を作りたいと考えているがデザインが難しい。 ○コロナ対策で消毒液を使用するとき、手を使わずに使用できる台を作成した。</p> <p>&lt;「山を維持しながら、資源として活用する取り組み」について&gt; ○環境譲与税を活用して取り組みを進める。</p>	<p>&lt;オリジナル木工製品の開発について&gt; ○森と木の価値を高める検討会として、木製品販売業者や女性グループによる検討会を開催するとともに東濃松を活用した木製品を試作</p> <p>&lt;「山を維持しながら、資源として活用する取り組み」について&gt; ○森林環境譲与税を活用し、森林経営管理制度による森林整備の実施。</p>	<p>⑧ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業 ⑨ オリジナル木工製品開発促進事業 ⑩ <b>ジバスクラム恵那事業</b> ⑪ 森林環境譲与税を活用した森林整備</p>
		知恵とネットワークを生かしたものづくり	事業者連携で地産地消を進め、新たな価値をつくる	・異業種連携を促進する仕組みづくり	<p>&lt;「地域全体での木材活用」について&gt; ○市内に木質バイオマス発電工場が建設されれば、燃料としての材が市内で流通する。 ○石川農園やキャンプ場に新販売を始めた。</p>	<p>&lt;「地域全体での木材活用」について&gt; ○新販売の状況調査。</p>	<p>⑧ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲） ⑩ <b>ジバスクラム恵那事業（再掲）</b> ⑪ 地域全体での木材活用推進</p>
		市場開拓・販路拡大	流通を確保する	・市内産材を市内で利用してもらう流通の確保 ・地域全体での木材活用	<p>&lt;「地域全体での木材活用」について&gt; ○新築住宅に使用する木材を少しでも市内産材にすると経済効果大きい。 ○来年度から断熱性能を説明することが義務化される。 ○住宅建築による木材利用を促進する補助を検討するには、環境住宅を含めた支援を検討することが有効。 ○市内で住宅の建築を増やすには、住宅補助と合わせ優良な宅地の供給を増やす。 ○宅地分譲の3,000㎡の補助の緩和を行うことにより、宅地分譲が増える。 ○全国的に見て、木材供給量は不足しているが、人がいないため切量を増やせない。 ○恵那小径木の製品にJASのA認定を付けることで付加価値が上がり製品販売量が増える。 ○木材チップが市内で流通すれば地産地消。</p>	<p>&lt;「地域全体での木材活用」について&gt; ○総合計画において住宅施策を検討するよう提案 ○木材製材所への聞き取り ○建築業者への聞き取り</p>	<p>⑩ <b>ジバスクラム恵那事業（再掲）</b> ⑪ 地域全体での木材活用推進（再掲） ⑫ <b>環境住宅と合わせた木造住宅の検討（林政課・環境課）</b></p>
	集客・交流産業の振興	集客・交流産業の振興	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	・体験プログラムなど観光での活用	○奥矢作森林塾では、薪割体験や森林体験と合わせ奥矢作湖でのボート遊びもやっている。		<p>⑧ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲） ⑩ <b>ジバスクラム恵那事業（再掲）</b></p>
		集客できる拠点の整備	楽しんでもらえる場所をつくる	・林業体験できる場の整備			
		魅力発信	市内外に魅力を知ってもらう	・体験から定着へつなげる仕組みづくり	<p>&lt;「担い手対策として、体験から定着へつなげる仕組み作り」について&gt; ○体験ツアーの参加者から山仕事手習い塾でチェンソー講習など、より深い林業体験をする人が増えてきた。継続して取り組みを実施すると良い。 ○森のジョブステーションとも連携すべき。 ○採用して3年は補助金があるが、1人前になるには5年～7年必要。森林環境税を使って経営安定化を支援してほしい。</p>	<p>&lt;「担い手対策として、体験から定着へつなげる仕組み作り」について&gt; ○担い手対策としてチェンソー講座を実施</p>	<p>⑩ <b>ジバスクラム恵那事業（再掲）</b> ⑪ えなの森林魅力発信事業</p>
	経営基盤の強化	経営支援	時代に対応した持続する経営体制を整える	・生産性の向上 ・高性能機械の活用	<p>&lt;経営の安定化について&gt; ○賃金を上げるには生産性向上が必要。 ○生産性向上には①技術力アップ②高性能機械の導入が必要。</p>	<p>&lt;経営の安定化について&gt; ○森林環境譲与税を活用した森林整備の実施 ○少人数での生産性向上のため、スマート林業の</p>	<p>⑧ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（再掲） ⑨ 森林環境譲与税を活用した森林整備 ⑫ <b>森林環境譲与税を活用した機械レンタル支援及びデジタル化支援</b></p>

産業振興の課題・検討部会等での意見・対応状況（林業分野）

						勉強会を開催 ○ICT 機器の導入によるデジタル化を支援 ○高性能林業機械のレンタル支援を検討	
		経営基盤の強化		・安全に作業できる環境の整備（防護服等の活用）	○新規採用者に林業に必要な道具を一式用意する費用の支援を行ってほしい。 ○5年目ぐらいで退職する人が多いため、5年目の人にも防護服を支援しモチベーションを向上させる	○防護服等の支援を検討	新 森林環境譲与税を活用した技術者育成支援及び防護服等支援
		新たな担い手発掘と育成	起業・創業しやすい環境をつくる	(未着手)			
	人材の確保・育成	人材の確保	働きたいと思われる職場をつくる	・体験から定着へつなげる仕組みづくり ・木を切る人が不足	<「担い手対策として、体験から定着へつなげる仕組み作り」について> ○体験ツアーの参加者から山仕事手習い塾でチェーンソー講習など、より深い林業体験をする人が増えてきた。継続して取り組みを実施すると良い。  <担い手の確保として、離職率を下げる取り組みについて> ○森のジョブステーションとも連携すべき。 ○採用して3年は補助金があるが、1人前になるには5年～7年必要。森林環境税を使って経営安定化を支援してほしい。 ○5年目ぐらいで退職する人が多いため、技術向上の研修に参加しモチベーションを向上させる。	<「担い手対策として、体験から定着へつなげる仕組み作り」について> ○担い手対策としてチェーンソー講座を実施  ○森のジョブステーションを活用し、事業PR ○林業事業体にアンケート調査 ○少人数での生産性向上のため、スマート林業の勉強会を開催 ○技術者育成のための支援策を検討	⑧ えなの森林魅力発信事業（再掲） 新 森林環境譲与税を活用した技術者育成支援及び防護服等支援
		市民が事業者を知る機会の創出	地域の人に事業者の魅力を知ってもらおう	・林業者の情報発信に関するノウハウ不足			
		潜在的人材の発掘	まだ動いていない人に活躍してもらおう	(未着手)	<潜在的人材の発掘について> ○半林人材も見据えて確保すべき ○体験ツアーの参加者には、積極的に山づくりに参加したい人もいる。少しずつ技術を教え育成する	<潜在的人材の発掘について> ○担い手対策としてチェーンソー講座の継続 ○森のジョブステーションの活用	⑧ えなの森林魅力発信事業（再掲）
		人材育成	伝統や文化、技術を伝え、次の担い手を育成する	・人手不足のため育成できない ・人材育成のコスト負担 ・オリジナル製品開発 ・付加価値の高いビジネスモデルの構築	<技術の向上について> ○制度の対象外により国、県の研修を受けられない事業体や職員がいる。モチベーション維持と技術向上のため研修費用の支援策が必要 ○新人職員に現場で技術指導する補助があると良い  <オリジナル木工製品の開発について> ○森の木を活かした木製品の検討を行い、木材利用を増やす ○「城主木」でオリジナル製品を作りたいと考えているがデザインが難しい。 ○コロナ対策で消毒液を使用するとき、手を使わずに使用できる台を作成した。	<技術の向上について> ○担い手対策としてチェーンソー講座の継続 ○林業事業体にアンケート調査 ○技術者育成のための支援策を検討  <オリジナル木工製品の開発について> ○森と木を生かす方策を検討し、新たな商品開発の検討を実施する。	⑧ オリジナル木工製品開発促進事業（再掲） ⑧ えなの森林魅力発信事業（再掲） ⑧ 地域全体での木材活用推進（再掲） 新 森林環境譲与税を活用した技術者育成支援及び防護服等支援（再掲）
			企業立地の促進		(未着手)		
③ バランスの取れた企業誘致	産業基盤の強化	地域に必要な企業を誘致する		(未着手)			
		地域の個性を生かした産業基盤の強化		(未着手)			